



地方独立行政法人青森県産業技術センター

下北ブランド研究所だよ！

◇退任のあいさつ

下北ブランド研究所長の松原です。この3月で定年退職する運びとなりました。八戸市にあった水産物加工研究所に配属されて以来、38年間大変お世話になりました。その後は、水産修練所、水産増殖センター、水産試験場、大畑地方水産業改良普及所、下北ブランド研究開発センター、ふるさと食品研究センター、食品総合研究所と渡り歩きました。水産食品加工研究が多く、私としては有意義な職場環境だったと思います。

平成21年に青森県の試験研究機関が地方独立行政法人化(独法化)し、職員としては大激動を経験しました。県民の税金で運営される我々研究機関は、県民の役に立つものでなければなりません。それは、体制が変わり独法化した現在でも変わるものではありません。そして、これほど効果的に利用できる機関も少ないのではないかと思います。当研究所も出資者である県民の皆様の御要望に応えるべく日々努力してまいりますので、今後とも御利用くださるようよろしくお願いいたします。



松原 久 所長

最後に、これまでに培った水産加工に関する知識や技術は私にとっての強みとも言えますので、退職後も水産加工関係の技術分野には関わり、一県民として青森県産業技術センター(青森産技)を利用し、外側から青森産技を支援していきたいと考えています。

地方独立行政法人は、県の時代と違って、その存在が保証されていません。業務実績が評価委員会で著しく評価が悪ければ、解散させられてしまう可能性もあります。それは、青森県にとって大きな損失に違いありません。そのため、青森県の産業界の皆様方には青森産技の利活用を通じ、職員と共に、青森産技を今後とも盛り上げてくださるようお願いいたします。

長くなりましたが、お付き合いくださりありがとうございました。皆様の益々の御発展を祈念し、御挨拶とさせていただきます。

◇令和2年度 商品開発への支援状況

令和2年度は、国内はもとより、世界中で新型コロナウイルスの感染拡大が続き、暮らしや経済に甚大な影響を受けた一年でした。生産者や食品事業者をはじめ、関係者の皆様におかれましては、厳しい状況が今もなお続いていることと思います。しかし、このような状況下にあっても、活路を見いだすべく新商品の開発、既存商品のリニューアルに積極果敢に取り組まれた事例がありましたので、当研究所の支援内容と併せてご紹介します。また、当研究所では、加工食品開発への技術的支援をしておりますので、遠慮なくご相談ください。

〇アピオスの花を使用した新商品を開発

合同会社むつつのたね(むつつ市)では、アピオスの花を使用したドレッシングやシロップを令和2年12月に販売しました。むつつのたねは、これまで食育や農家支援を手掛けてきましたが、今回が初めての加工品の開発・販売となりました。アピオス栽培に取り組む中で、花の有効利用を模索した結果、食感や花色を活かした商品のアイデアが生まれ、商品開発に着手しました。

商品開発に当たり、レストランパザパ(むつつ市)が製造を担当しました。初めての加工品開発ということもあり、当研究所では、増粘剤の使用方法や殺菌条件のアドバイスのほか、微生物試験などを行い、商品開発を支援しました。



【左から「ピンクのシーザー」「ロゼシロップ」「赤いオリーブ】

○既存商品のリニューアル！「生仕込うにだれ」

(株)駒嶺商店(風間浦村)では、平成29年から、粒(蒸し)ウニを使用した「うにだれ」を開発・販売しておりました。その後、ウニの風味を活かすため、生ウニの使用にこだわり、約2年間の試作を経て、令和2年7月、「生仕込うにだれ」の販売開始に至りました。なお、当研究所では、新商品の開発に当たって、殺菌条件等をアドバイスしております。

◇トピックス

1. むつ市立苫生小学校での出前授業

令和2年10月12日(月)、苫生小学校(むつ市)の5年生約70名を対象に「下北の特産品の加工について」と題し、出前授業を行いました。当日は、当研究所の紹介のほか、「青森県及び下北地域の農林水産業」や「夏秋イチゴを原料とした加工品づくり」について、動画を取り入れながら説明しました。生徒の皆さんは、熱心にメモをとりながら説明を聞いていました。特に、苦労して完成に至った「夏秋いちごサイダー」の開発秘話を聞いてからは、加工品開発の難しさを感じるとともに、地元産品への愛着がわいていた様子でした。授業終了後、生徒の皆さんから、心温まる丁寧なお手紙を頂戴し、一次産業や地元産品への理解が深まったことがわかり、大変嬉しく思いました。

当研究所では、子供たちの産業に対する理解の増進を目的に、出前授業などの教育プログラムへの協力を行っております。新型コロナウイルスの発生状況にもよりますが、可能な限り対応してまいりたいと考えておりますので、ご検討ください。

2. スーパーマーケットトレードショー

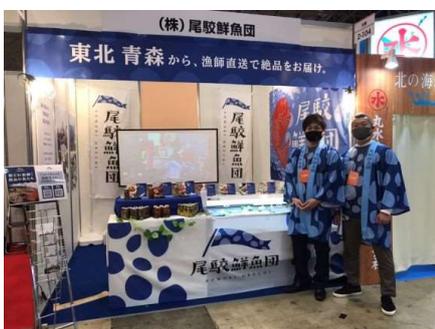
2月17日～19日幕張メッセで開催された「スーパーマーケットトレードショー2021(SMTS)」の青森県ブースに、(株)尾駮鮮魚団(六ヶ所村)、(株)北彩屋(大畑町)が出展しました。当所では、両社の展示品目について、構想から製造指導まで一連の開発支援を行いました。尾駮鮮魚団は、サバ・サケ・ヒラメ等を原料としたシメサバ、押し寿司、食べるラー油、オイル漬け製品等の計8品目、北彩屋には、海峡サーモンを使った食べるラー油、オイル漬け、燻製風焼き魚パック製品等の計5品目について技術普及しました。両社ともに盛況裏に終えたそうです。



【生仕込うにだれ】



【夏秋イチゴサイダーの開発秘話を聞き入る生徒たち】



【尾駮鮮魚団ブース】



【北彩屋ブース】

下北ブランド研究所だよ！ 第4号

編集・発行 地方独立行政法人 青森県産業技術センター 下北ブランド研究所
〒039-4401 青森県むつ市大畑町上野154
TEL: 0175-34-2188、FAX: 0175-45-3175

発行日 令和3年3月8日